

Ⅲ 第2期町田市特別支援教育推進計画の取組について

1 第2期推進計画の取組

(1) 基本目標1 特別支援教育を推進する環境・体制の整備

具体的な取組	現状 (□) 課題 (▲)
①小・中学校のサポートルーム（特別支援教室）の設置及び拠点校分割	<p>□段階的にサポートルームを設置し、2021年4月に町田市全小中学校に設置を完了させた。</p> <p>□利用児童生徒数の増加に合わせ、2020年度及び2022年度に拠点校、巡回校の再編を行った。</p> <p>□小学校：拠点校 18校 巡回校 24校 中学校：拠点校 5校 巡回校 15校</p> <p>▲サポートルームの設置により利用者数が増加した。今後の利用者数の動向や、新たな学校づくりによる統合も見据え、サポートルーム拠点校の再編を検討する必要がある。</p>
②特別支援学級の整備	<p>□小学校：知的障がい学級 20校 自閉症・情緒障がい学級 6校 中学校：知的障がい学級 10校 自閉症・情緒障がい学級 1校</p> <p>▲特別支援学級に在籍する児童生徒数が増加した。今後の推移を注視し、新たな学校づくりによる統合も見据え、特別支援学級の整備を検討する必要がある。</p>
③特別支援教育支援員の適正な配置	<p>□特別支援教育支援員を町田市の小・中学校全校に配置した。</p> <p>□配置基準に基づき、各学校の特別支援学級に適正に配置した。</p> <p>□小学校： 89名 中学校： 37名</p> <p>▲特別支援教育支援員の支援力の向上を目指し、研修の充実を図る必要がある。</p>

【成果】

- ・サポートルームは2021年度に小・中学校全校に設置を完了しました。その結果、サポートルームを自校で利用できるようになり、利用者が増加しました。
- ・自閉症・情緒障がい特別支援学級を小学校は新たに2校開設、中学校は新たに1校開設しました。小学校は町田市の各地域に設置した結果、在籍者数が増加しました。

【課題】

- ・サポートルームや特別支援学級に通う人数が増加しました。今後の人数の動向や、新たな学校づくりによる統合も見据え、サポートルーム拠点校の再編や特別支援学級の整備の検討が必要です。
- ・特別支援教育支援員の支援力の向上を目指して、研修の充実を図る必要があります。

(2) 基本目標2 特別支援学級・特別支援教室における指導力の向上

具体的な取組	現状 (□) 課題 (▲)
①教員対象研修の充実	<p>□特別支援教育教員研修：コース別に分け理解状況に応じて実施。2022年度は5回実施。</p> <p>□特別支援教育コーディネーター研修：2022年度は5回実施。</p> <p>□特別支援教室専門員研修：2022年度は3回実施。</p> <p>▲教員の問題意識を踏まえた研修内容の検討及び合同研修等実施方法の工夫・改善が必要である。</p>
②町田市特別支援教育授業リーダー育成事業の実施	<p>□2020年度 7名 2021年度 6名 2022年度 8名 2023年度 7名</p> <p>□2022年度における授業公開・協議会の参加者は、総計50名を超えた。</p> <p>▲多くの教員の授業改善につなげるため、より多くの教員が参加できるような手だてを行うことが必要である。</p>
③特別支援教育推進モデル校の指定	<p>□特別支援教育推進モデル校を指定し、研究発表会で研究成果を普及した。</p> <p>2020年度から2022年度まで各1校ずつ</p> <p>【実施校】</p> <p>2020年度 町田第五小学校 『一人1台・クラウド活用時代 個別最適な学び&協働的な学び』</p> <p>2021年度 真光寺中学校 『多様な生徒と共に学ぶ計画的・組織的に行う指導方法の実践』</p> <p>2022年度 町田第二小学校 『見る力を高め、学ぶ喜びを実感できる子どもの育成』</p> <p>2023年度 南成瀬中学校 『一人一人の教育的ニーズを踏まえた、教育活動と支援体制の構築』</p> <p>▲研究の成果をより広く普及させるための手だてを考えていく必要がある。</p>
④特別支援教育アドバイザー訪問	<p>□「特別支援教育ハンドブック」を活用した校内研究をはじめ、サポートルームの個別指導、学級担任のユニバーサルデザインに関する授業の指導・助言を行った。</p> <p>□2020年度 25校 2021年度 27校 2022年度 32校</p> <p>▲特別支援教育のより一層の推進を図るために、校内研究の必要性を改めて周知していく必要がある。</p>
⑤要請訪問	<p>□学校からの要請を受け、指導主事等が訪問し、特別支援教育の視点から指導・助言を行った。</p> <p>□2020年度 47回 2021年度 54回 2022年度 6回</p>
⑥関係者会議の充実	<p>□「特別支援教育設置校長会」を小・中学校でそれぞれ年3回ずつ開催した。また、「中・高特別支援教育コーディネーター連絡協議会」を実施した。</p> <p>□「小学校・幼稚園・保育園・子ども発達センター・都立特別支援学校・学童連絡協議会」は対面で行っていたが、コロナ禍以降、資料送付・電話連絡等で実施した。</p> <p>□「交流教育連絡会」は、オンラインや書面にて開催した。</p>

<p>⑦町田市特別支援教育ハンドブックの作成・活用</p>	<p>□2020年に作成し、特別支援に関する基礎的知識の習得や、指導力・専門性の向上につなげた。</p> <p>□特別支援教育に関する校内研修会で、ハンドブックを活用する取組が多く見られた。</p> <p>▲活用について、さまざまな場面で働きかけを行ったが、使用は全体の約5割といった状況である。</p> <p>▲通常の学級を含めそれぞれの学級種別ごとに、より実践的に活用できるように、内容や活用方法を検討していく必要がある。</p>
-------------------------------	---

【成果】

- ・教員研修については、経験年数等に応じて計画的に実施しました。
- ・特別支援教育ハンドブックを作成し町田市の全教員への配付や、町田市特別支援教育授業リーダーによる授業公開で、教員の特別支援教育に対する意識を高めることができました。

【課題】

- ・特別支援教育の視点を踏まえた授業改善につながるよう、実践的な内容を踏まえた研修を実施する必要があります。
- ・町田市特別支援教育授業リーダーの実践や特別支援教育推進モデル校における研究の成果の共有をしていく必要があります。
- ・教育センターの学校への支援体制を充実させる必要があります。
- ・町田の丘学園との交流連絡会や幼稚園・保育園等との連絡協議会などは、コロナ禍において対面での実施が難しかったため、今後は取組状況を踏まえ、効果的な実施方法を再検討する必要があります。
- ・ハンドブックについて、通常の学級を含めそれぞれの学級種別ごとに実践的に活用できるように、内容や活用方法を検討していく必要があります。

(3) 基本目標3 切れ目のない支援体制の構築

具体的な取組	現状 (□) 課題 (▲)
①教育センターの支援	<p>□進学相談会について運営方法を一部見直したことで、保護者や児童、委員の負担軽減につなげた。</p> <p>□2021年度より心理士による電話相談を実施し、すぐに相談できる体制を整えた。</p> <p>▲就学相談・進学相談の件数が増加傾向にある。より適正な相談会の運用方法等について見直しを図っていく必要がある。</p> <p>▲保護者が必要な相談先につながるができるように、相談機関に関する情報の周知を図る。</p>
②子ども発達センターとの連携	<p>□就学相談会における委員派遣、資料提供、また子ども発達センターでの就学相談説明会の開催等における連携を図った。</p> <p>▲切れ目のない支援の実現に向けて連携を強化する必要がある。</p>
③障がい福祉課との連携	<p>□計画の評価、都立特別支援学校等についての情報共有により連携を図っている。</p>
④都立町田の丘学園との連携	<p>□町田の丘学園との副籍交流の対応、研修会における講師派遣等の連携を図る等、体制を構築した。</p> <p>▲センター的機能を有する町田の丘学園との連携を強化し、町田市の特別支援教育の一層の推進を図っていく必要がある。</p>
⑤医療関係者との連携	<p>□医療的ケアが必要な児童の就学に際し、学校、保護者、関係機関と連携および情報共有を行った。</p>

【成果】

- 就学相談や教育相談等を計画的かつ継続的に実施し、保護者のニーズに応じた支援を行いました。
- 都立町田の丘学園との連携を図り、学校説明会の協力や町田の丘学園と市内小中学校との交流連絡会及び交流教育などの教育的支援を行いました。

【課題】

- 就学相談・進学相談の件数が増加傾向にあります。就学相談・進学相談では、より適正な相談会の運営方法等について見直しを図っていくことが必要です。
- 保護者が必要な相談先につながるができるように、相談機関に関する情報の周知を図る必要があります。
- 切れ目のない教育的支援が行えるよう、子ども発達センター等の関係機関と連携を強化していく必要があります。
- センター的機能を有する都立特別支援学校との連携を今後も強化していく必要があります。

2 第2期の振り返りと第3期で取り組む課題

【目指す子どもの姿からの視点】

<p>① 特別支援教育が目指す子どもの姿からの視点</p> <p>自立と社会参加の基礎となる力を育む ・自己肯定感・自尊感情 ・相互理解と人間関係の形成</p>
<p>② 「町田市子どもにやさしいまち条例」からの視点</p> <p>子どもが幸せに暮らすことができるよう子どもにとって大切な権利を保障し、子どもにかかわる施策について、子どもが意見表明し参画する機会を提供する</p>

【第2期（2020～2023）の取組に対する振り返りと課題】

<p>基本目標1 特別支援教育を推進する環境・体制の整備</p>		
<p>(1) 小・中学校サポートルームの設置及び拠点校分割 (2) 特別支援学級の整備 (3) 特別支援教育支援員の適正な配置</p>		<p>㉗ 特別支援学級やサポートルームに通う児童生徒数が増加した ㉘ 特別支援教育支援員の支援力の向上を目指した研修を充実させる必要がある</p>
<p>基本目標2 特別支援学級・特別支援教室における指導力の向上</p>		
<p>(1) 教員対象研修の充実 (2) 町田市特別支援教育授業リーダー育成事業の実施 (3) 特別支援教育推進モデル校の指定 (4) 特別支援教育アドバイザー訪問 (5) 要請訪問 (6) 関係者会議の充実 (7) 町田市特別支援教育ハンドブックの作成・活用</p>		<p>㉙ 特別支援教育の視点を踏まえた授業改善が必要である ㉚ 研修や研究の成果を共有しきれていない ㉛ 教育センターの学校への支援体制を充実させる必要がある ㉜ 他機関との連絡会の実施方法を再検討する必要がある ㉝ ハンドブックの活用が不十分である</p>
<p>基本目標3 切れ目のない支援体制の構築</p>		
<p>(1) 教育センターの支援 (2) 子ども発達センターとの連携 (3) 障がい福祉課との連携 (4) 都立町田の丘学園との連携 (5) 医療機関との連携</p>		<p>㉞ 就学相談の相談件数が増加傾向であり、運営方法を見直す必要がある ㉟ 保護者に特別支援教育に関する必要な情報が届くように検討する必要がある ㊱ 切れ目のない支援を行うために関係機関との連携の強化が必要である ㊲ 特別支援学校のセンター的機能との連携の強化が必要である</p>

【現状から取り組む課題】

<p>㉓ 全ての学級に、支援が必要な児童生徒が在籍している</p>
<p>㉔ 通常の学級における特別支援教育の取組が必要である</p>
<p>㉕ 新たな学校づくりによる統合が予定されている</p>

第3期町田市特別支援教育推進計画で取り組む課題（2024～2028）

第2期からの課題	【第3期の取り組む課題】	【第3期基本目標】
①	① 児童生徒一人ひとりの特性を理解し、自尊感情を高め、困難さの改善を図る	【基本目標1】 専門性の向上と 学校支援の充実
	ウキス ② 特別支援教育の視点を踏まえた授業改善を行う	
	イキス ③ 通常の学級を含む全ての学級における教員等の指導力・支援力の向上を図る	
	①シ ④ 学校全体で特別支援教育の取組を推進していく	
	エ ⑤ 実践事例を蓄積して研究成果を広める	
	オ ⑥ 教育センターによる学校支援の取組をしていく	
	② ⑦ 児童生徒の意見を反映し、指導・支援の改善につなげる	
ク	⑧ 就学・進学相談会の運営方法等の見直しを行う	【基本目標2】 保護者支援に向けた 相談体制の充実
	ケ ⑨ 保護者に特別支援教育に関する必要な情報が届くようにする	
	② ⑩ 保護者の意見を反映できる取組をしていく	
ア	⑪ 人数の動向等を見据えて特別支援学級の設置やサポートルームの拠点校の整備をする	【基本目標3】 教育環境の 充実
	セ ⑫ 新たな学校づくりにおいて、スムーズに統合・移転ができるよう準備を行う	
ケ	⑬ 特別支援教育に関する関係機関の連携を行う	【基本目標4】 共生社会を目指した 連携強化
	サ ⑭ 特別支援学校のセンター的機能を活用し連携を強化する	
	カコ ⑮ 切れ目のない支援ができるよう関係機関の連携を強化する	

3 第3期推進計画の目標と具体的な取組

町田市の特別支援教育が目指す姿及びこれまでの取組等を踏まえ、次の4つを基本

【 町田市の特別支援教育が目指す子どもの姿 】



基本目標1 専門性の向上と学校支援の充実

第2期町田市特別支援教育推進計画の取組を踏まえ、通常の学級を含めた全ての教員等の、特別支援教育の理解を図り、普段の指導で実践することを目指します。専門性の高い教員の育成や、学級種別ごとの「町田市特別支援教育ハンドブック」の作成をはじめ、引き続き子どもと直接的に関わる教員等の指導力・支援力を高める研修等を充実させます。

基本目標2 保護者支援に向けた相談体制の充実

就学相談・進学相談をはじめとした特別支援教育に関わる情報や、教育相談の機能を積極的に発信するとともに、各種相談体制の充実を図り、特別な支援を必要とする児童生徒に対し、適切な支援へつなげます。

また、保護者の方に対するアンケート調査等を実施し、より良い支援の在り方や今後の方向性を検討していきます。

基本目標3 教育環境の充実

在籍児童生徒数の推移を注視するとともに、新たな学校づくりによる統合を見据え、特別支援学級やサポートルーム拠点校の整備を進めていきます。

また、新たな学校づくりにおける統合により建替えをする全小学校に、知的障がい特別支援学級及び自閉症・情緒障がい特別支援学級を設置していきます。

基本目標4 共生社会を目指した連携強化

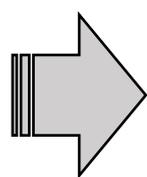
障がいの有無にかかわらず、すべての子どもがともに成長できるよう、地域社会への参加や包容（インクルージョン）を推進します。

子どもたちの自立や社会参加に向け、学校や関係機関、市の関係部課等との連携を強化し、乳幼児期から学校卒業後の社会参加まで「切れ目のない支援体制」を継続して構築していきます。

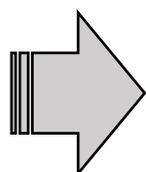
目標とし、具体的に取り組みます。

社会の中で自分らしく豊かに成長していけるよう
「自立」と「社会参加」の基礎となる力を身につける子ども

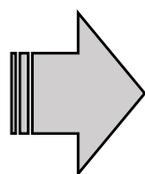
<具体的な取組>



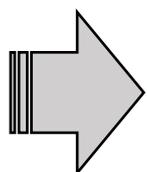
- (1) 教員研修等の充実
- (2) 授業リーダー育成事業
- (3) 町田市特別支援教育ハンドブック（学級種別ごと）の作成と活用
- (4) 特別支援教育推進モデル校の実践
- (5) 特別支援教育充実に向けたアウトリーチ支援
- (6) 特別支援教育支援員の配置・新規開設の特別支援学級への増員



- (1) 就学・進学相談会の充実
- (2) 情報提供の充実
- (3) 保護者に対する意識調査の実施
- (4) 教育相談の充実



- (1) 特別支援学級及びサポートルーム拠点校の整備
- (2) 新たな学校づくりにおける特別支援学級及び通級指導学級等の整備



- (1) 特別支援教育に関する相談窓口の連携
- (2) 都立特別支援学校との連携
- (3) 切れ目のない支援を行うための関係機関との連携